

平成 22 年度インターンシップ実施報告 —一貫したキャリア教育を目指して—

The Internship Program in 2010,
For Career Education.

山庄司志朗*1, 丹羽昌平*2, 袴田吉朗*3, 常吉俊宏*4
工藤司*5, 國持良行*5, 青島偉夫*6, 大石和典*6

Shiro YAMASHOJI, Shohei NIWA, Yoshiro HAKAMATA, Toshihiro TSUNEYOSHI
Tsukasa KUDO, Yoshiyuki KUNIMOCCHI, Hideo AOSHIMA, Kazunori OHISHI

Abstract: Ours Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology(SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2010. Ours program has been started from 1999. In 2010, fifty-nine companies in the western part of Shizuoka prefecture proposed this program by providing their own internship programs for one hundred students. Ninety students participated in the programs. The results of this program over ten years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度からを授業の一貫として単位を付与して実施している。履修する学生も少しずつ増加し、企業との相互理解も深まってきている。このように、この授業は人材育成の手段として周辺企業にも理解が深まり、確実に定着しつつあると言えよう。また、本学のキャリア教育の中で重要な地位を占める事業となってきた。

本報告は、平成 22 年度夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果をまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討している。さらに平成 11 年から平成 22 年までの 12 年間のインターンシップ実施結果の総括的なまとめおよび来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

2. 平成 22 年度インターンシップの計画

昨年度の反省点として、以下の点が挙げられた。

- ①昨年度の実習企業数は 62 社となり、過去 5 年間で最低の状況に陥った。
- ②「おとなしい」、「元気がない」など積極性や会話能力のなさを指摘された学生がいた。
- ③受入企業から、学生の実習内容や到達度が低かったという評価が今年度も挙げられた。

平成 22 年度の実習企業は、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れるようにした。

- ①企業側への受入希望調査を昨年度同様 4 月とした。
- ②企業からの全ての申込み作業、実習報告書および評価作

業なども Web 上で入力可能とした。

- ③学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、挨拶や言葉遣いの指導を行った。

これらのことから、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を目指し、より高い教育効果を得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップは、地域産業との連携による地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から、重要な役割を負っている。それ故、協力依頼企業の選定にあたっては、過去 11 年間の受入依頼の発送状況やこれまでの就職状況などを十分に考慮した。選考の末、4 月 20 日には大学周辺の企業 500 社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。

その結果、平成 22 年度は、59 社の企業から 60 の実習テーマについて、受入の申し込みがあつた。これは過去 5 ヶ年で最も少ない受入数であり、一昨年の秋から続く景気悪化の影響を顕著に受ける形となった。受入実習生の総数も 90 名に減少、一部の学生が参加を断念する異常な事態になった。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

5 月初旬、全学学生に対して、事前研修およびインターンシップ実習への参加、その後の報告書の提出と報告会および事後研修への参加なしには単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ希望者について 4 月 27 日に第 1 回の事前研修を行い、その後 3 回の事前研修を実施した。実習希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」について、学生がこの実習内容をよく検討した上で企業を選定し、それを受け決定した。しかし、希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮した。

実習希望学生と派遣企業との間で実習内容についての調整を行ったのち、59 社の企業に 90 名の実習生を派遣することとなった。

2012 年 3 月 2 日受理

*1 インターンシップ WG リーダー(物質生命科学科), *2 機械工学科, *3 電気電子工学科, *4 物質生命科学科, *5 総合情報学部, *6 キャリア支援課

実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の数などの一覧を表1に示した。また、表2および表3には、地域別内訳を示した。

表1 実習生受入企業一覧表(企業59社,テーマ60,募集人数108名,実習学生90名)

No.	会社名	実習地	テーマ	日数	受入人数	実習人数
1	(株)コーヨー化成	富士市	ウェットティッシュ製品の製造工程に関わることでものづくりの根本を体験することと,社会人としての重みを理解すること。	9/13-9/17	5	1
2	アイティ・インターナショナル(株)	静岡市	ITシステム構築(Web系),コンテンツ制作(映像,Web)	9/6-9/17	10	2
3	生活協同組合コープしずおか	静岡市	体験し,話を聞くことで自分にとって働くことの意味や意義を考えよう。	8/25-8/30	5	2
4	(有)内山精工	静岡市	3次元グラフィックモデリング,加工データ作成。	8/23-8/27	5	1
5	松本印刷(株)	吉田町	印刷工程の把握。	8/23-9/3	10	1
6	日本軽金属(株)	静岡市	アルミ電解コンデンサーの陽極箔化成プロセスにおける電力原単位の削減をテーマとした現状調査・改善。	8/18-8/31	10	1
7	静岡市 日本平動物園【公募】	静岡市	動物の飼育実習。	10/9-10/11	3	1
8	山崎工業(株)	静岡市	品質安定と生産効率。	9/6-9/17	10	1
9	矢崎化工(株)	静岡市	無人搬送車の組立実習・福祉介護用品の開発及び設計に関わる業務。	8/16-8/20	5	1
10	三明機工(株)	静岡市	ものづくり,開発設計の楽しさを感じてください。	8/23-8/27	10	3
11	鈴与システムテクノロジー(株)	静岡市	グループワークによる開発演習を中心とした実習。	8/16-8/20	5	2
12	鈴与(株)	静岡市	港や倉庫などの見学を通じて「鈴与」を理解しよう。	8/16-8/19	4	2
13	富士ゼロックス静岡(株)	浜松市	印刷物の製作・各種加工。	9/6-9/17	10	2
14	(株)アーティス	浜松市	ウェブサイト制作に関する業務を理解する。	9/6-9/17	10	1
15	(株)小楠金属工業所	浜松市	金属を削るに関する実習。	9/6-9/17	10	2
16	羽立工業(株)	湖西市	射出成形及び成形部材組立作業。	9/6-9/10	5	2
17	ショーダテクトロン(株)	浜松市	次期製品となりえる装置の仕様および構想設計。	9/6-9/17	10	1
18	リゾートトラスト(株)グランドエクスピア浜名湖	浜松市	接客の基本である笑顔,立ち居振る舞い。	8/11-8/25	14	5
19	(株)エヌエステー	浜松市	電子機器製作における,基本的なハンダ・圧着作業や簡単な試験業務。	8/23-8/27	5	1
20	浜二ペイント(株)	浜松市	木工塗装の体験と塗料の性能評価。	9/6-9/10	5	1
21	(株)ジャパン・ミヤキ	浜松市	モノづくりとは何であるかを体験する。	9/6-9/17	10	3
22	日星電気(株)	浜松市	光ファイバ関連製品の開発,製造,試験	8/16-8/27	10	1
23	浜松ケーブルテレビ(株)	浜松市	ケーブルテレビ,ケーブルインターネット事業に関する業務全般の流れを理解する。	9/6-9/10	5	1
24	天方産業(株)	浜松市	サーバとネットワークについて。	8/23-9/3	10	1
25	天方産業(株)	浜松市	マイコンを使用したソフト作成。	8/16-8/27	10	1
26	ASTI(株)	浜松市	ものづくりとエアコンパネルの評価。	9/6-9/17	12	1
27	(株)アイゼン	浜松市	機械加工と品質管理。	9/7-9/17	9	1
28	やまと興業(株)	浜松市	商品の開発から納入までの流れを学ぶ。	9/7-9/21	10	3
29	(株)コーリツ	浜松市	機械保全から設計まで実習を通して業務の大切さと流れをつかむ。	8/25-8/31	5	2
30	静岡シブヤ精機(株)	浜松市	図面のトレース等。	9/8-9/22	10	2
31	(株)榛葉鉄工所	掛川市	職業体験。	8/16-8/27	3	2
32	(株)藤田鉄工所	掛川市	製造の体験学習。	8/16-8/27	10	2
33	大和鍛工(株)	掛川市	鍛造品製造工程の補助と実習体験。	9/13-9/23	5	2
34	(株)スギノマシン 掛川事業所	掛川市	金属加工,仕上作業及び製造現場での安全衛生。	9/18-9/23	5	1
35	(株)赤堀技研	袋井市	機械加工(切削など)の加工技術の研修。	8/16-9/3	15	2
36	(株)コバテック	袋井市	工作機械実習と小型減速機の設計。	9/6-9/17	10	1
37	(社福)明和会 袋井学園	袋井市	知的障害者との交流を通して,福祉への理解を深める	8/11-8/21	10	1

38	ニチアス(株)袋井工場	袋井市	ふっ素樹脂または、自動車部品の製造と生産技術に関する業務補助。	9/6-9/10	5	2	1
39	化工機プラント環境エンジニア(株)袋井事業所	袋井市	下水処理技術の基礎と下水処理施設維持管理の実務。	8/16-8/27	10	2	2
40	(社福)明和会 障害者支援施設 あきは寮	袋井市	あなたの心やさしい気持ちを生かしてみませんか。	9/6-9/17	10	3	2
41	(株)アクティ森	森町	体験型観光施設における接客・サービス。	8/11-8/24	14	2	2
42	ミネベア(株)浜松工場	袋井市	材料元素分析。	8/23-9/3	10	1	1
43	静岡製機(株)	袋井市	穀物乾燥機の初乾燥試験,米粉粉碎機の粉碎試験、色彩選別機の評価試験など。	9/6-9/17	10	2	2
44	NSKワーナー(株)	袋井市	インターンシップ生の学科を鑑み決定。	9/6-9/17	10	1	1
45	袋井市役所	袋井市	まちづくりや福祉,生涯学習など地方自治に関する業務の実習。	8/16-8/27 他	15	5	5
46	ポーラ化成工業(株)袋井工場	袋井市	化粧品の製造及び品質管理。	8/23-8/27	5	1	1
47	(株)エーピーアイコーポレーション袋井工場	袋井市	微生物を用いた発酵実験及び発酵液からの有用物精製実験。	8/16-8/27	10	2	2
48	NNP電子(株)	磐田市	電子制御機器の試作品実験データ取り,検査。	8/18-8/31	10	1	1
49	(株)オーミ	磐田市	一つの物を生み出すまでの面白さと苦しさ。	8/19-8/31	8	2	2
50	(株)メカワールド	磐田市	省力化装置の組立。	9/6-9/17	10	2	1
51	(株)大進堂	磐田市	印刷物の作製。	9/6-9/15	10	1	1
52	(株)赤松電気	磐田市	現場の実情を自分で見る。	8/30-9/3	5	1	1
53	磐田信用金庫	磐田市	地域金融機関の役割と金融の基礎。	8/16-8/20	5	3	3
54	(株)ロック・フィールド 静岡ファクトリー	磐田市	サラダ・惣菜などを作る。	9/7-9/15	7	5	1
55	(株)メルコ	磐田市	金型の製造と設計。	8/17-8/28	10	2	1
56	(株)エフ・シー・シー 竜洋工場	磐田市	検具および目視での検査。	8/23-8/27	5	2	1
57	浜松鉄工(株)	磐田市	二輪車・四輪車部品の製造工程・製造方法を知る。	8/18-8/30	10	2	1
58	(株)小出製作所	磐田市	ものづくり(鑄造)の理解を深める金型設計・製作。	9/6-9/10	5	2	2
59	NTN(株)磐田製作所	磐田市	働くことの意味を知り,今後の就職活動に活かす。	9/6-9/17	10	3	3
60	川崎工業(株)	菊川市	シーケンサを使用した回路の体験学習。	8/17-8/27	9	2	2

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	1年	2年	3年	4年	計
機械			28		28
電子			28		28
物質			18		18
コン			10		10
人間			6		6
計	0	0	90	0	90

表3 実習企業地域別内訳

市名	人数	市名	人数
浜松市	17	富士市	1
袋井市	12	菊川市	1
磐田市	12	湖西市	1
静岡市	10	吉田町	1
掛川市	4	森町	1

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	第4回	報告会	第5回	計
機械	51	49	45	33			178
電気電子	63	58	42	32			195
情報システム	1	0	0	23			24
物質生命	48	47	29	13			137
コンピュータ	38	29	25	6			98
人間情報	11	9	8	3			31
院材料科学	1	1					2
計	213	193	149	110	0	0	665

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

【機械設計・開発・などの分野】

機械設計. CAD による作図. 受注生産機の機構・開発設計. 試作機の性能確認. 自動車部品のモーター駆動化をにらんだ先行技術開発. 図面検証→試作→評価. 製品開発の補助作業. 鍛造. 金型の設計・製作現場を学ぶ. 開発・設計現場において開発業務を体験. 3次元 CAD を使ったパーツモデリング. エレベータ部品の設計. 開発品の試作. 製作. 評価. 健康関連機器の開発補助.

【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】

機械加工実習. クラッチディスク摩擦材の抄造作業. 自動車・オートバイ・農業機械の精密部品を切削加工. マシニングセンタによる製作. ワイヤ放電加工. オートバイマフラーの製造工程. 塑性加工(鍛造, 熱処理作業工程). 非鉄金属の各種加工. NC 加工汎用機の体験. 金型設計→加工→仕上げ→射出成形の体験. パイプ曲げ, ロウ付け, 溶接, 出荷等. NC 旋盤, マシニングセンタ, ホブ盤. 細穴放電加工. 洗濯機の部品製造から組立作業まで.

【検査・測定・実験などの分野】

完成品検査. 画像処理装置. 加工条件設定のための測定分析. 試作機の性能確認. 2輪車用ショックアブソーバのテスト. エレベータ関連部品の品質調査. ショックアブソーバの試作組立, ベンチテスト. 自動車部品の性能試験. 品質管理及び試験活動のサポート. フッ素樹脂製チューブ・ウレタン製チューブの押し出し条件確立. 位置決め XY テーブルの評価実験. 自動車部品の振動特性測定. CAE による振動解析. 金属疲労分析. プレス製品の性能評価. 実験データの測定と理論解との比較.

【電気・電子関係の開発・実験などの分野】

工場内各種機器の電力集計及び分析. 工場内照明器具, 空調機器, 動力機器の使用電力集計及び分析. 電子制御機器の試作品実験データ収集. 超音波応用機器の開発設計. AutoCAD による電気回路の設計. 高速精密送り装置のモーター及びドライバーの特性解析. 微細認識用工学系における照明の解析. 電磁部品の評価検査. 各種回路の計測制御. レーザ干渉計を使用した変位測定. 太陽光発電システムの取付実習.

【物質科学関係の開発・実験などの分野】

微生物応用による開発試験. 汚水浄化システムの理解. 水処理施設フローの習得と運転管理. 電子顕微鏡取扱業務. 環境計量における, 試料の前処理. 有機合成による香料分質の合成・精製. 化粧品品の品質管理. FeNi 合金の磁気特性調査. し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習. 銅合金の透過電顕による組織観察. 緑茶カテキンの分析・整理. 水質分析.

【情報関係などの分野】

図書館業務全般. エレベータ電気手配自動化ソフト作成. 物流業務と情報システムの現場実習. パソコンデータ入力. IT システム管理, ユーザーサポート等. PC 機器類の研究指導. インターネットを使った情報収集. ワード・エクセルなどの応用. 市内の観光スポットの写真撮影や資料収集・ホームページの作成. 3次元 CAD ソフトと遠隔ネットワークシステムの習得. データ収集プログラムの作成. データベースソフトの作成. Linux のリアルタイム制御. 発信用ソフトのデモ用サンプル制作.

【企業経営・管理などの分野】

接客サービス. 本社として各支店との事務連絡業務. 接客販売. 放送・番組制作における技術部門の仕事. 現場見学. 実習(配管, リフォーム, 不動産). PR・広報等. 社会人になるための基礎教育の体験. ベンチャー企業の経営

現場. 作業工程管理. 新製品のマーケティング.

【福祉活動・団体活動などの分野】

消火・救急訓練, 消防機材点検等. お札や御守の授与, おみくじや護摩木のお授け補助, 参拝者観光者に対するサービス. 施設内外の整備(窓拭き, 草刈り, 押入れ掃除等), 重度障害児(者)の介助, 散歩・制作活動等の介助. 市民参加の地域福祉活動.

5. 事前教育について

前述したように, 4月27日から4回にわたり事前研修会を開催し, 基礎的必要事項や心構えなどを説明した. 第1回事前研修ではインターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え, 履修等について説明を行った. 第2回事前研修は「社会人とは一仕事・働くことの意義」について講義を行い, インターンシップそして社会人となるための心構えを学習してもらった. 第3回目は昨年度の実習生である3名の4年生にインターンシップでどのようなことが体験できたのか, また参加する上での考え方や心構えについて話してもらった. 続いて, 本学キャリア支援課から, 業界や企業についての基礎知識について説明を行った. 第4回目は実習直前の注意事項の説明を行い, 「意欲と積極性を高める」ことに関してできるだけの注意を喚起した.

このように, 4回にわたる事前研修によって, 明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えている. 事前研修への参加者数を表4に示した.

また, 本年度も各事前研修をビデオに収録し, これを本学図書館のDVDライブラリーに登録した. このことで, 事前研修当日に実験実習やその他の用事によって参加できなかった学生も, 後日DVDを見て, 内容に関するレポートを提出することによって, 事前研修を受けたと認定されるようにした.

第1回事前研修参加者213名の内75名が企業実習を行うこととなった. この人数から実習参加率は35.0%となり, 昨年の57.3%, 一昨年の42.9%と比較すると参加率が大きく減少した.

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって, まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した. つまり, 双方の義務や責任を明らかにし, 万一の場合に備えるため実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するため, その上で双方が署名捺印した.

また, 学生は実習に先立って, 参加申込書の提出にともなって助言教員の承認をうけることになっている. これは本学教員への連絡だけでなく, 学生が自分から参加の意思を示すことで, キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある.

インターンシップ実習は, 8月11日から9月23日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ, 滞り無く終了することができた. 各事業所における実習期間中には, インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として, 受け入れ企業に担当教員が出向いて, 実習の受入担当者と面談を行った.

ここ3年間に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した. 本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数, 実際に実習を実施した企業の数, 募集学生数, 参加学生数, 単位取得学生数の変化を図1に示した. 昨年度まで受入事業所数および募集実習生数は年々増加する傾向にあったが, 本年度は企業を取り巻く不況の影

響により、実習生の受入れが困難な事業所が多く、近年の状況を大幅に下回った。11年間の参加学生の累計は700名以上となった。

参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の傾向は、機械工学科と電気電子工学科の参加学生数が今年のそれぞれ9名から28名へと前年の約3倍に達したことである。学生の多くは、輸送用機器、電機電子部品製造の実習内容を

を希望した。これは就業体験を通じて働くことの意義を感じたいという意気込みが強かったものと考えられる。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験しなかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

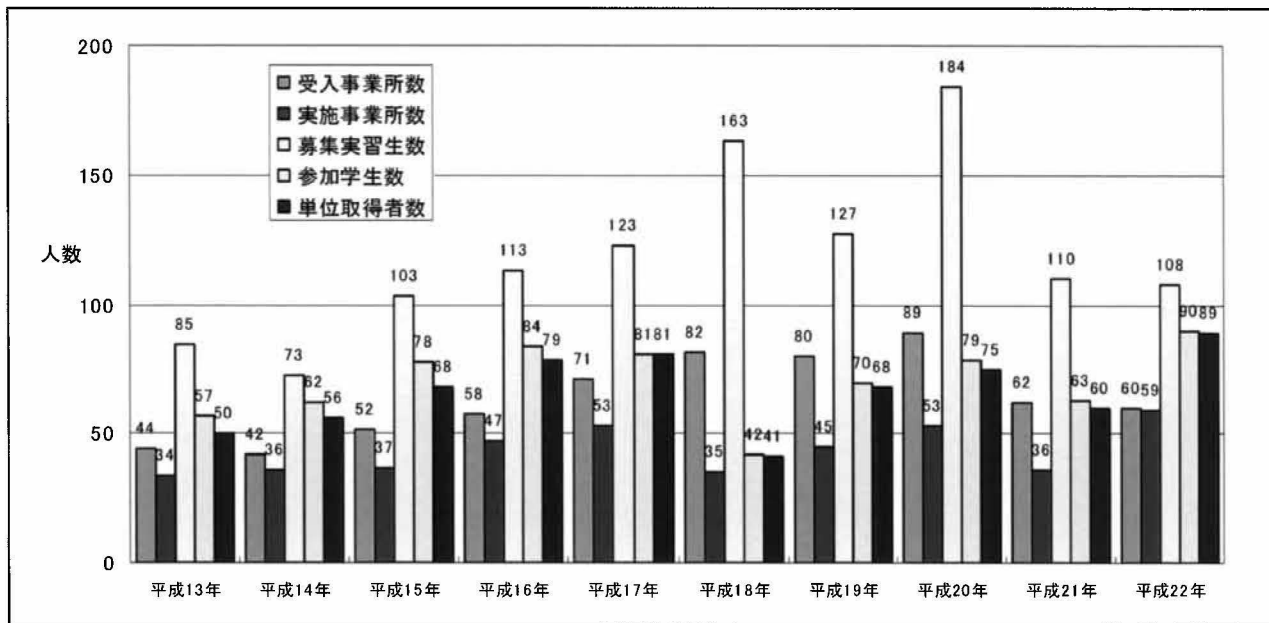


図1 受入企業等の数および参加学生数の10年間の変化

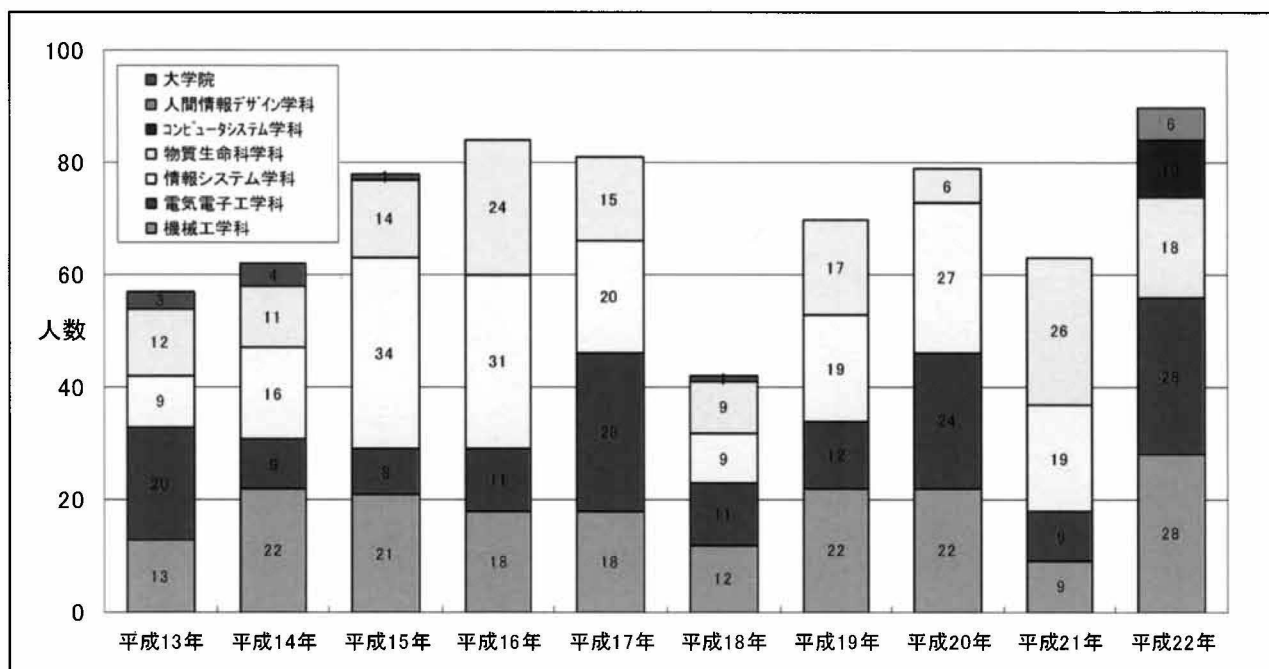


図2 参加学生数の学科別内訳(10年間の変化)

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示した。「製作、組立、加工」が24%と2位の「生産ライン業務全般」の12%の倍とずば抜けて高い。3位の「実験、測定、試験、分析」の10%までが多い項目で1・3位の項目は例年と同様の高比率となった。それ以下の項目については余り差がない状態であった。昨年と比較して特筆すべきこととしては「営業、接客、販売」、「福祉関連業務全般」が順位と比率を下げ、ほぼ半減となったことがあげられる。このあたりは昨年の流れから推測すると景気回復の影響を示唆するものかもしれない。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。「慎重かつ正確な作業の重要性」の比率が20%越えと倍以上の大幅な伸びとなった。好ましい方向と考えたい。また「仕事仲間との協調性の重要性」が10%を越えてきた。これについては昨今の就活の想像を超えた厳しさと対照的に、自らを省みた際に昨年同様のコミュニケーション力の不足を認識した、学生の意識変化ではないかと考えられる。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」をまとめたものが図5である。実習内容に関する感想としては、「実習担当者の助言がためになった」との感想が大きく増加した。研修の実があがったと考えられる。以下、「見聞きするものすべてが新しかった」17%、「貴重な体験ができ、非常に勉強になった」14%、「実習期間は充実していて短く感じた」13%が例年同様高率であった。

学生にとってやはりインターンシップは現場の大きな刺激を得る貴重な機会として重要であることが伺える。産業界の流れとしてインターンシップ期間の短縮、特に1日インターンシップなどという動きもあるようであるが、形式に終わることが危惧される。むしろ是非長期間の就業体験を実施できる機会を増やす方向で検討して頂きたい。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものが図6である。その中で「もっと質問をするべきだった」が昨年の13%をはるかに超えて21%と最多の回答となった。その他は「うまく話や説明ができなかった」、「自ら考えて仕事をするのができなかった」、「インターンシップ前の調査が足らなかった」など、昨年同様である。近年の学生のコミュニケーション力の不足が表れた典型的な感想であろう。逆にこの機会に具体的な現場の就業場面でコミュニケーション力の必要を痛感させることができるのはインターンシップの貴重な価値であると考えられる。

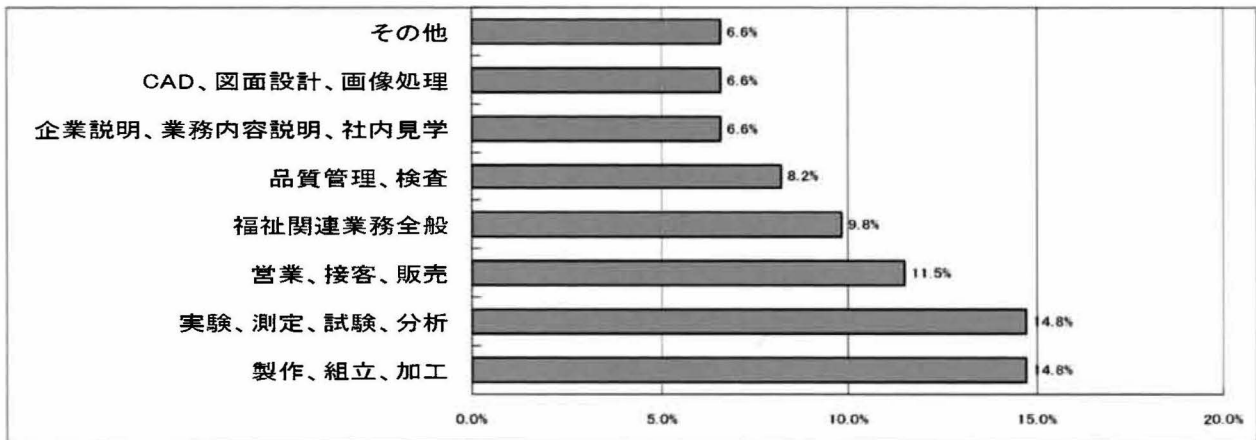


図3 実習内容の詳細

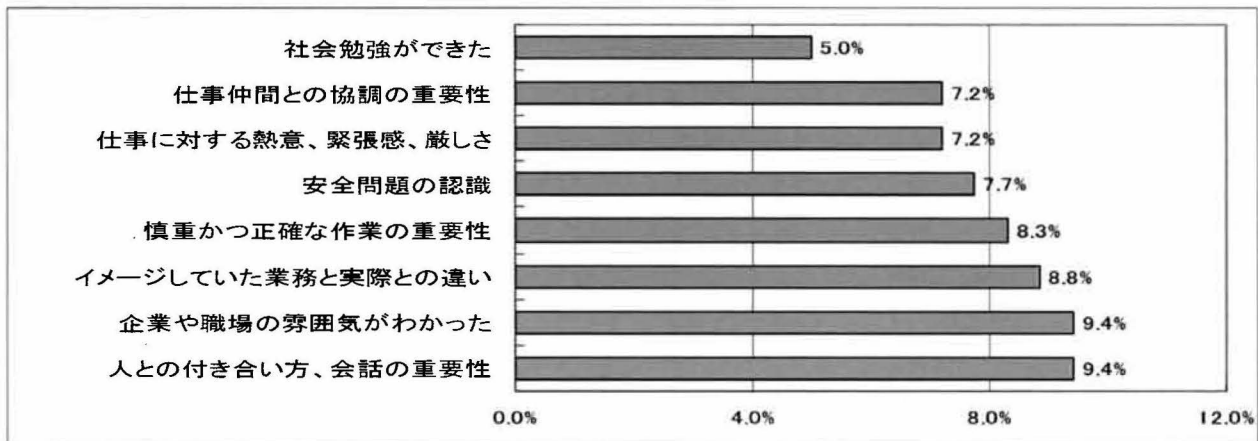


図4 実習によって得られた成果

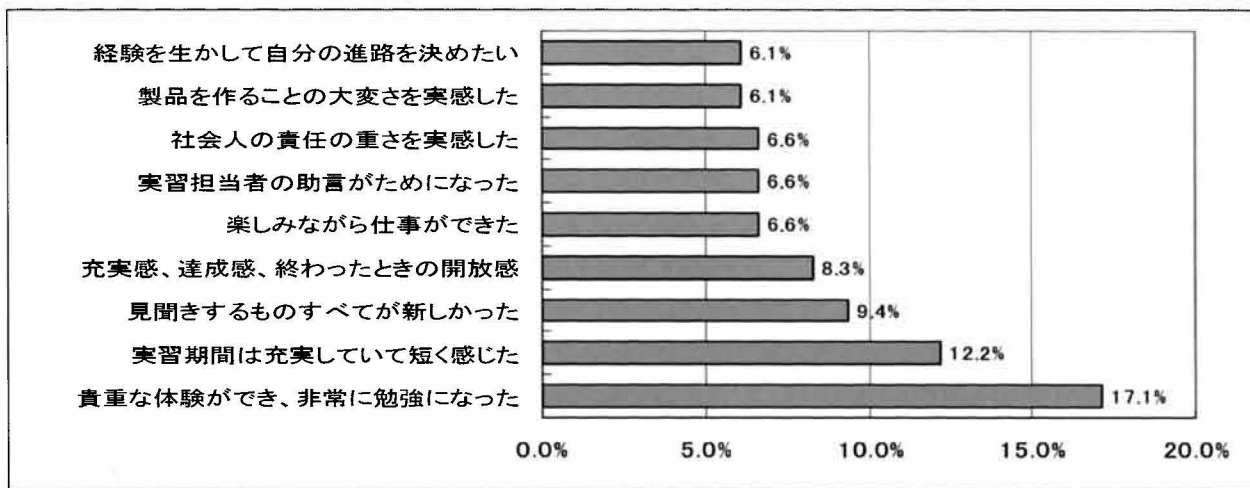


図5 実習に関する感想

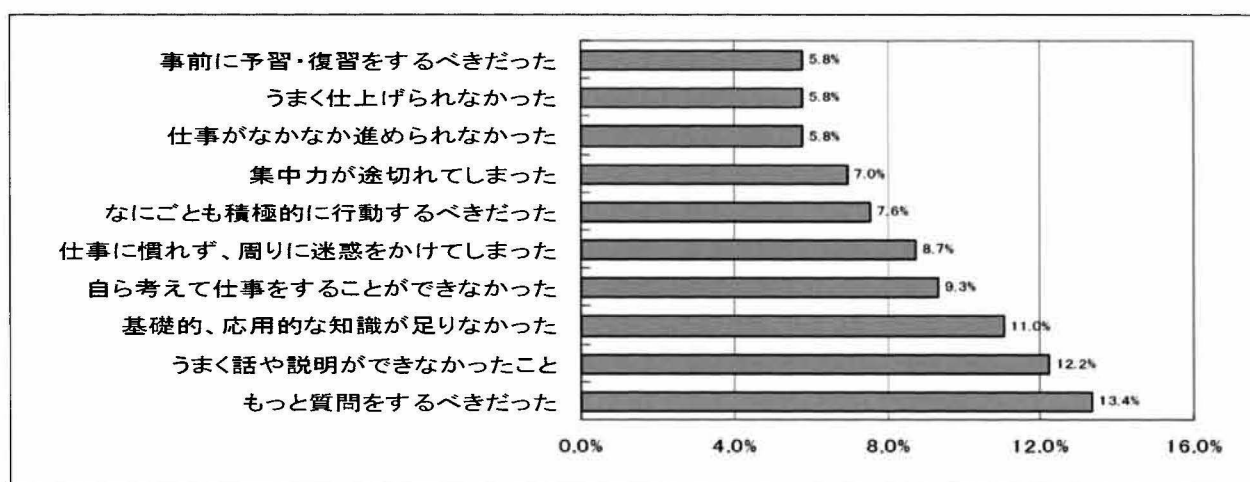


図6 実習に関する反省

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、訪問教員）

8.1 受入企業による実習生の個人別評価と所見

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10の評価項目について5段階で評価するものであった。その結果(回答数 85)を表6に示す。「創意工夫」の評価項目に対する平均値が3.7となった以外は評価の平均値はすべて4.0以上となっており、実習生は概ね良い評価を受けたと考えられる。「創意工夫」および「積極性」の評価項目に対する平均値がやや低いのは例年の傾向であり、「仕事の正確さ」、「創意工夫」、「積極性」などの評価項目に対しては、5段階で「普通」と評価された割合が高くなり、例年、受入企業側から改善を希望する点として具体的に指摘されている。

今年度は「仕事の正確さ」および「積極性」については比較的高い評価を受けている。これは事前研修における指導が効果をあげたものと考えたい。勤務状況は、他の評価項目と比較しても特に良好(5段階で最高の「大変良い」という評価が80%以上)で、昨年同様大学のインターンシップ学生は基本的に時間の厳守などに対しては非常によく認識し実習していたことが伺える。

次に、評価と並んで受入企業の担当者によって述べられた所見について、内容別に整理したものを個人別評価の一覧表の後にまとめた。良い評価を受けたものから、さまざまの指摘を

受けたものまでであるが、個々の実習生の活動の状況が良く分かって興味深い。

インターンシップの終了後に、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、受入企業、参加学生および訪問教員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果について以下述べる。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

53 企業からの回答があった。受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。「実習生の実習内容は満足すべきものであったか」の評価は14%がやや不適切または不適切という結果であった。不適切という回答が一件あったが「もう少し、もの作りを肌で感じられるお仕事をさせてあげたかった」というコメントが付いていた。実習内容と学生の希望や専門性とのミスマッチを心配した意見が多かった。「実習生の態度や状況について」「インターンシップ全般に関して」の評価は、それぞれ96%と92%の回答が適切またはほぼ適切であった。「来年以降のインターンシップ受け入れ」に関しては、積極的に受け入れたい15件、受け入れたい13件、受け入れは可能14件、不可能ではないが検討を要す8件、無回答3件であった。

「インターンシップの目的」(複数回答可)には合計で163件の回答があった。回答数の多かった上位3項目は、①学生の勤労観・職業観の育成(46件)、②企業と学生の相互

理解 (27 件), ③産学連携による人材育成 (24 件), であった。この結果は 3 年連続で変わらない。また, 「来年以降実施にあたっての留意点, 改善を要する点」(複数回答可)には合計で 101 件の回答があった。回答数の多かった上位 3 項目は, ①学生の希望とのマッチング (34 件), ②学生の意欲や積極性の向上 (28 件), ③実習内容の打ち合わせ (13 件) である。これらを踏まえて来年度以降のインターンシップを計画していくことが必要である。

8.3 学生によるインターンシップの評価

学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図 8 に示した。昨年同様あるいはそれ以上に指導や指導内容への満足度の高さが認められる。特に指導についてはほぼ 9 割と極めて高い満足度が示された。卒業を 1 年以上あとに控えて, 現場に就業に出る貴重な機会に, 的確な指導を受けて自らの勉学すべきあるいは工夫すべきポイントを痛感し, その後の勉学・生活にフィードバックできるのは, 他には得難い貴重な経験となっていることが見て取れる。是非この制度を継続改良発展してゆくことが望まれる。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

単位を認定するために, 学生の実習状況を調査して大学として評価をする必要がある。このため本年も各企業へ担当教員が訪問し, 企業側の受け入れ担当者のほか実習生本人とも面談し聞き取り調査を行った。実習先企業を訪問した担当教員の報告をもとに, 学生の実習にのぞむ様子, および実習に対する意欲をグラフにまとめたのが図 9 であ

る。昨年同様, 学生がまじめに, また意欲的に実習に取り組んでいた, という感想が高い結果となった。

一方, 訪問教員による企業の実習内容, プログラム, 指導状況に対する評価は, 70%以上が「満足」あるいは「ほぼ満足」という結果となった (図 10)。自由記述欄の内容から以下のような肯定的な意見が見られた。

- ・作業全体に自身が責任を持たなければならず大変に教育的である
- ・大学では経験できない実習ができた
- ・大学では知りえない内容を多く学びうる
- ・生産現場での貴重な体験ができた
- ・肌でのつくりを体験できた
- ・実習プログラムが明確に作成されていた
- ・限定された条件の中でのそれなりに有効な就業体験ができた

一方で極めて少数ではあるが, 実習生の受け入れに不慣れなため戸惑っている企業が見られた, あるいは実習内容がアルバイト的でインターンシップの実習としてはたして適切であるのか疑問が残る, 比較的仕事量の少ない職場であり少し物足りなさを感じた, 意欲的に取り組んでいるか否かがやや心配である, というような意見もあった。また通勤時における学生の交通事故が 1 件, 労働災害 (左薬指先端骨折) という気の毒な事故も 1 件あった。このような課題へのサポートをどのようにしていくのか今後の検討が必要である。

表 6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数 85)

評価項目	評点					平均値
	大変良い 5	やや良い 4	普通 3	やや劣る 2	劣る 1	
1. 勤務状況(欠勤, 遅刻, 早退, などの状況)はいかがでしたか?	70 82%	10 12%	5 6%	0 0%	0 0%	4.8
2. 勤務態度(言葉遣い, 挨拶, 返事など)はいかがでしたか?	38 45%	32 38%	10 12%	4 5%	1 1%	4.2
3. 実習内容はよく理解しましたか?	33 39%	39 46%	12 14%	1 1%	0 0%	4.2
4. 仕事において, よく実行し, 行動し, 努力しましたか?	36 42%	38 45%	9 11%	2 2%	0 0%	4.3
5. 仕事は正確で良い結果が出ましたか?	26 31%	42 49%	14 16%	1 1%	2 2%	4.0
6. 創意工夫の姿勢は見られましたか?	15 18%	35 41%	32 38%	3 4%	0 0%	3.7
7. 仕事に対する積極性はいかがでしたか?	34 40%	28 33%	21 25%	2 2%	0 0%	4.1
8. 責任感を持っていましたか?	33 39%	35 41%	16 19%	1 1%	0 0%	4.2
9. 協調性はいかがでしたか?	36 42%	33 39%	12 14%	3 4%	1 1%	4.2
10. 全体評価	43 51%	30 35%	8 9%	4 5%	0 0%	4.3

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

＜積極的な活動が高く評価された。全体として良い評価を得た。＞

- 覚えるまでに時間は掛かるが、身につけると確実に丁寧な仕事をするので、任せることができる。
- 真剣に黙々と仕事に取り組んでくれました。
- 仕事に対し理解力があり、短時間で仕事をこなしていました。
- 飲み込みが速く僅かな時間で実際の作業につくことができ周囲の作業者とも協調していた。
- 積極的に質問し疑問点を明確にして作業に取り組む姿勢が窺えた。
- 実習では積極的に質問したり、サンプル作成を熱心におこなう等、知識や技術を習得しようとする姿勢に好感を持ちました。
- 明るくハキハキしていて、当社従業員と一緒に実習を行った他大学生との挨拶、コミュニケーションもしっかりできていました。
- 不法投棄ゴミの処理や、野焼きの苦情対応など人の嫌がる業務を進んで行ってくれました。
- まじめに実習に取り組み、判らないことも積極的に質問する姿勢がありました。
- 作業を積極的に行う事が出来ました。他のインターンのまとめ役として、良く働きました。
- 作業内容を良く理解し、積極的に改善しながら作業ができました。
- ミスが出ないように、責任を持って、落ち着いて作業することが出来ました。
- 挨拶、態度などとてもよかったですと思います。
- 疑問点を積極的に質問をした事が、良かったと思います。
- 最終日のプレゼンでは堂々と発表していました。
- チームメンバーの考え、意見を聞き、吸収しようとする姿勢が見られました。
- 短期間で、普段使った事のない計測器を使用しての実験等とまどいが多くあったと思いますが、持っている力を最大限出してくれたと思います。
- 挨拶や仕事に取り組む姿勢は、我々も見習わなくてはならない程しっかりできており、社員とのコミュニケーションも自ら積極的に取っている姿が見られた。全体を通して非常に前向きな姿勢が見られ、成果も申し分ありません。
- 疑問に思ったことは、積極的に聞いてきました。なかなかできることではなく、彼の良い所だと感じました。
- CAD 実習では学校で使用している機種とは違う CAD ソフトであったが半日程度の操作指導で十分操作できるようになりました。実際に手書図面を CAD データ化する作業もしてもらいました。分からないところは積極的に質問等もあり、一生懸命頑張っておりました。
- インターンシップの目的をしっかり持っていたことが良いです。高校や大学で学んだことが実社会でどのように活かされているか理解しようと努力していました。
- 名刺の作成でも色々工夫のあとが見られました。
- 積極的に質問する姿勢に好感が持てました。
- とても暑い中外作業、室内作業等頑張っていたと思います。福祉の事は解らないが、利用者の方とも積極的にコミュニケーションを取る事が出来ていました。
- 朗らかで仕事に積極的に取り組み、好感が持てました。
- 実習ではありますが、現場からは貴重な戦力であったと評価されています。
- 今まで当事業所で受け入れたインターン生のなかでも特によくがんばってくれたと思います。
- 安全に関する注意事項を良く守り、確実に実習をこなしました。また猛暑の中、場内整備を行っていただき、大変助かりました。
- 今まで当事業所で受け入れたインターン生のなかでも特によくがんばってくれたと思います。
- 安全に関する注意事項を良く守り、確実に実習をこなしました。また猛暑の中、場内整備を行っていただき、大変助かりました。
- 真面目に、積極的に取り組んだ。また、改善点に積極的に取り組む姿勢があった。
- プレゼン資料を作る際にはグループの中で大活躍してくれました。
- 仕事内容に興味を持って、真面目に取り組んでおりました。
- 大変優秀な方だと思います。本人にもよろしくお伝えください。

- 元気が良く、とても好印象でした。(2件)
- 責任感を持って研修に取り組みました。接客の基本である挨拶、笑顔も時間を追ってよくなりました。体力も必要な仕事で集中力を切らさずよくがんばっていました。
- 行動力・協調性に優れていました。
- 検討内容の理解に優れていました。
- 実習に関して、不明な点は積極的に質問をして来る等意欲的に取り組む姿勢が感じられた。
- 専門外の内容にもかかわらず、よく努力、研鑽し、頑張っておられました。
- 機械の説明などを行っている時など反応がよく、的を得ている質問もたくさんしてくれたので教え甲斐がありました。
- 業務内容にも興味を持ってきていたようなのでこちらも楽しく仕事が出来ました。
- 金型製造の過程で鏡面磨きという工程があります。こちらもなかなか筋が良かったです。手が空いたときモップがけなど自ら清掃の申し出があり一週間集中して現場の人間になりきっていました。文句なしです。

<ほぼ好評であったが一部に改善すべき点もあった>

- とてもまじめであり、勤務態度は非常に良かった。治具付けという工程を実習して頂いたが、覚えが早く数量をよくこなしていた。疑問点を聞くなど、積極的な姿勢があればなお良い。最終日に提出して頂いたレポートも工程を理解しまとめていた。
- 毎朝、メモ帳を持って作業内容を聞きに来るなど、仕事に対する姿勢に好感を持ってました。人前に立つのは苦手なようなので、社会に出て場慣れをしていく事で、より魅力のある社会人に成長できると思います。
- 笑顔と元気な声が印象的であった。細かな事に気がつき、行動が先に出るなど、探究心も旺盛で積極性を感じた反面、雑なところも垣間見えた。物事を理解すると大きな力を発揮できる。
- 実習内容として与えた課題に真剣に取り組む姿勢は、大変良かったと思いました。その反面、コミュニケーション能力が無いと言う訳では有りませんが、もう少しコミュニケーションを積極的に取ろうとする意欲が見られればもっと良かったと思います。
- 全般的に一生懸命取り組んでいただきましたが、「声」が小さかったため、理解されにくい要素がありました。
- パソコンを使用する業務については手際よく処理してくれました。様々な業務に効率性、有効性を含めた創意工夫を積極的に行い、見やすい資料づくりができると良いと思います。
- CADの作業を研修したが、教えたことへの理解力はかなりあり作業も早かった。物静かで黙々と作業をいていたが、受け答えや挨拶はもう少し声を大きくはっきりするともっと良かった。
- 始業の約1時間前に入社し準備をしてやる気が伺えた。わからないことについては理解しようと何度も聞く姿勢があった。挨拶もしっかりできていたが、もう少し声が大きくと良かった。
- 実習中、元気良く作業が出来ました。多少ミスをしてしまう事がありましたが、周りの人と協力して、フォローする事が出来ました。
- 若干大人しい性格であるものの、真面目であり、堅実に課題をこなす姿勢は評価できます。緊張している様子であったので、これからは程よく肩の力を抜いて、ときにはチームの潤滑油となるコミュニケーションを図る努力も必要です。いずれにしても2週間、指導者の指示をしっかり聞いて、安全に作業に取り組んでくれました。ありがとうございました。
- インターンシップの参加理由が「人とのコミュニケーションが苦手なため克服したい。スーパーなどでも自分の適性があるか知りたい」とのことでした。その課題を意識してか、他大学の学生も一緒にグループワークでは、進行役を買って出るなどの努力が見受けられました。話をしても視線を合わせないことが多く見受けられたので、今後どのような職業に就くにしてもコミュニケーションの原点である会話がスムーズに出来るよう努力が必要と思われます。

<問題点の指摘があった>

- ・福祉の仕事を少し甘く考えている傾向に有るかと思ひます。福祉は、利用者の方が中心で無ければならないが、その利用者との接し方かなり問題があるかと思ひます。正直で思ったままの行動を取られる方なのかも知れませんが、社会経験を積み重ね、社会人としての資質アップ期待します。
- 積極的にメモをとる姿勢があると良いです。研修の中盤以降はメモを取っていましたが、特に初日の講義ではあまり取っていませんでした。後々の研修で必要なことを講義したので、できればメモして研修に生かして欲しいかっ

たです。

- 分からないところは、もっと自分から聞くなりして欲しいところもあった。実習全体、真面目に一生懸命やってくれました。しかし、居眠りすることが多々あり（病気か？）、本人も医師の診断を受けたいと言っておりました。
- 短期間のうえ開発技術業務の関係上、実習出来る範囲が少なかった為、評価があてはまるか否かは難しいところです。内容を説明した時に理解をしたのか否かが、彼の返答（反応）を見る限りこちらが分かりにくかったです。結果的には理解していたようでした。(6) (7) (9) についての判断は難しいのですが、あえて私の立場からいいます。自分の考え（意見）を出してみるとか、折角のチャンスですし、いろいろ質問してもらいたかったです。
- 利用者呼び捨てにしたり、勝手に指示を出す。（支援員より注意を受ける）
- 事前に説明してあったのにもかかわらず、自閉症の人たちに必要以上に言葉かけをする。注意するが、理解できなかった。
- 話し好きで、利用者さんに言葉かけを沢山して下さったのは良かった。
- 高校生、中学生のインターンシップの方と比較してレベルが高いとは言えず、大学生として評価をさせていただいた点において、辛口に採点させて頂きました。

<その他>

- 社会人として何が必要かも勉強していただけたと思います。
- 怪我をさせてしまい、申し訳ありませんでした。作業指導者の指示した手順を守らないという事は想定外で、当社でも反省し、設備に対し安全対策を追加しました。今後ケガをさせることのないように安全教育を見直します。
- 暑い中での農作業という非常に厳しい内容でしたがよく頑張ってくださいました。今回の経験を今後の学業、就職活動に活かして頂きたいと思います。
- 実習期間を通じて、『会社というところ』について、多くのことを学んだと思います。本人へは、特に大きく2つ、①専門知識の面、②人間性の面から、これからの課題が心の中に浮かんできたのではないかと思うので、ぜひ今日より、一步一步でもよいから、その課題への取り組みを開始するよう、アドバイス致しました。（2件）
- 知らない世界で緊張したと思います、そんな中、周りとのコミュニケーションをとる努力もされていたので、良い経験になったと思います。是非、自分にとって良い未来の選択が出来ることを願っています。

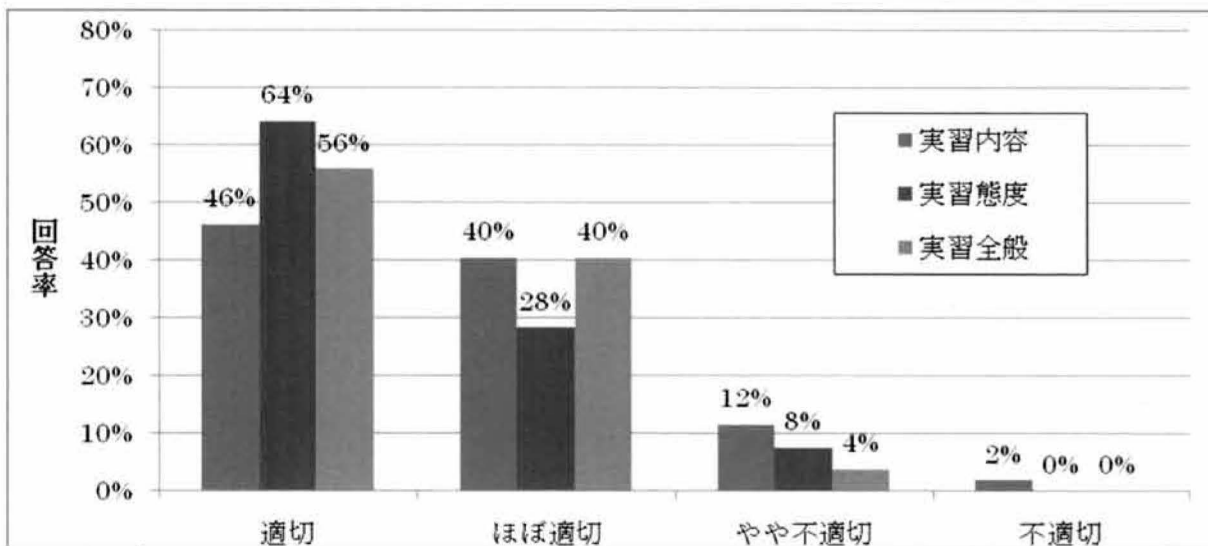


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

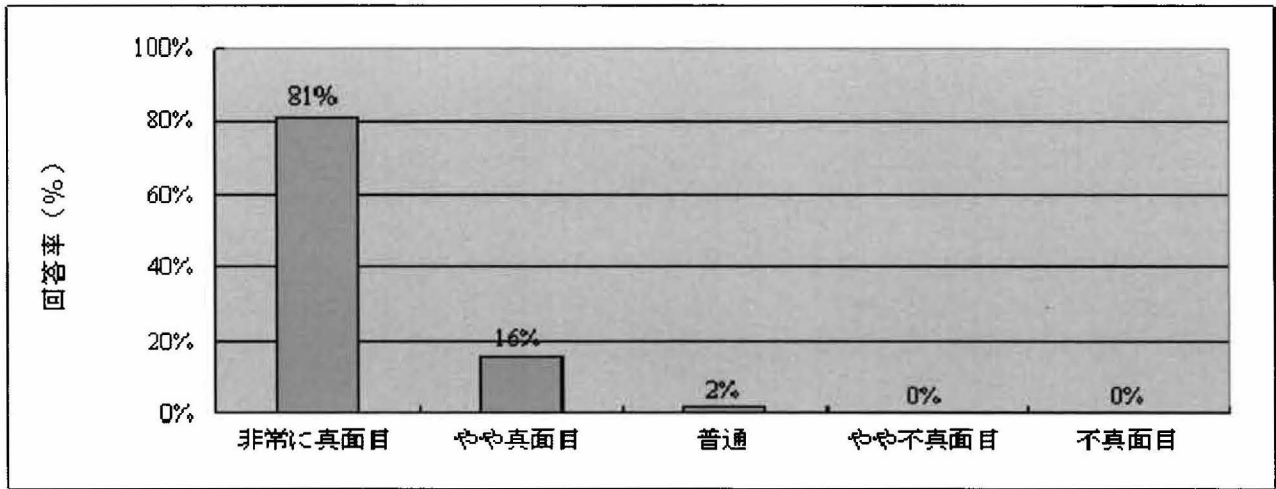


図8 実習生に対する訪問教員の評価①

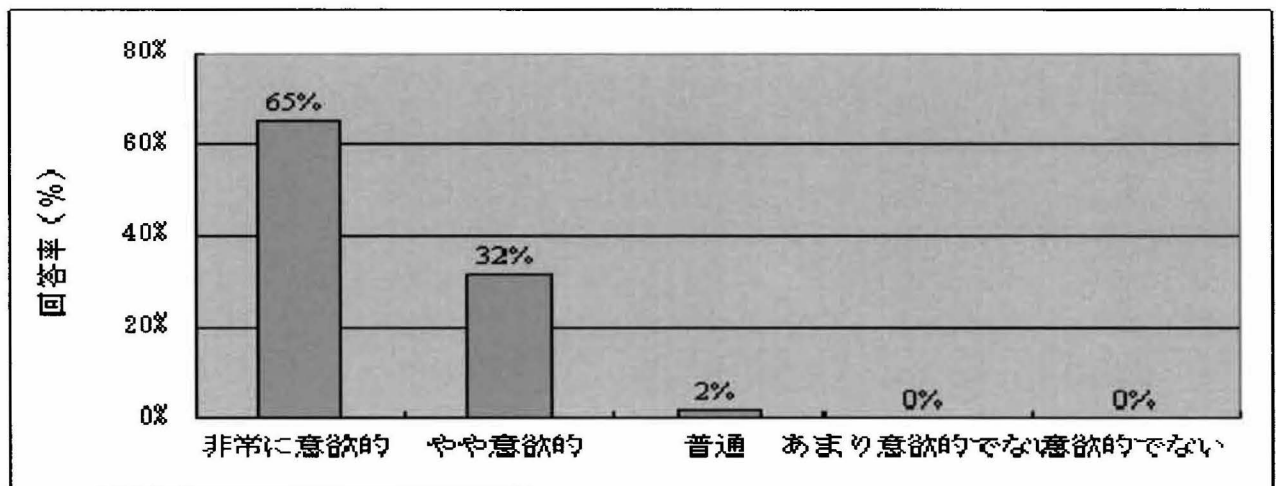


図9 実習生に対する訪問教員の評価②

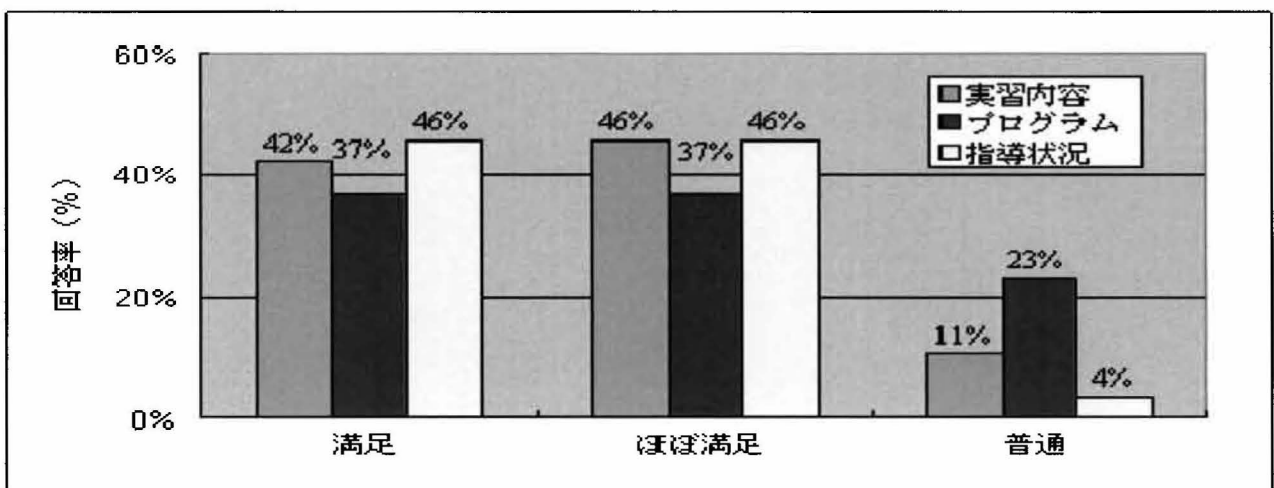


図10 訪問教員の受入事業所への評価と要望

9. 平成22年度インターンシップのまとめ

本年度インターンシップを取り巻く経済環境と、インターンシップの取り組みの限界と反省点は下記ようになる。

- ①低迷した経済状態が今年度も続き、昨年度よりも厳しい経済環境が西部地区を中心に広がり、受け入れ企業数が減少した。昨年度は、過去最悪として62社の企業が参加したと評価したが、今年度はさらに59社にまで減少してしまっただ。
- ②厳しい雇用環境を感じ取った学生が、就職活動を有利にするために、インターンシップの必要性を認知し、申込が昨年よりも多くなった。
- ③そのため、受け入れ企業よりも参加希望学生数が上回り、参加意欲の高い学生のみを選別せざるを得なかった。
- ④このことにより、希望する企業でインターンシップを行えない事態が生じた。この事態は、インターンシップの主旨から外れることになり、この改善を早急に行う必要がある。

このような状況で本年度のインターンシップが実行されたが、一部のミスマッチによるクレーム以外は円滑に行われ、学生と受け入れ企業は共に満足な結果に終わったといえる。ミスマッチとは、福祉関連の受け入れ施設でインターンシップが行われ、学生には不本意な配属先であったこと、受け入れ施設にとっても関心のない学生を受け入れざるを得なかったことである。

このような問題を解決今後は、理工科大学の学生の専門性が活かせる配属先を広げる必要がある。この点に関しては、各学科の新たなインターンシップ受け入れ企業の開拓がもてめられる。

例年どおり、インターンシップの内容は、生産ライン関連が主流であり、その次が品質管理関連の実験や分析が続いた。これらの作業を通じて、慎重かつ正確な作業が必要であることを学生たちは認識できたようである。ただし、受け入れ企業からの評価としては、積極性が乏しいとか、創意工夫が足りないなどの指摘があった。これらの評価は例年通りであった。この点に関して、本学で積極性や創意工夫を培う授業や実験を行う必要がある。

このような反省をもとに、本学は今年度の「就業力育成支援事業」に応募し、採択された。この取り組みは、「しなやかな専門性をもつ幅広い職業人の育成」を目的とし、1年次からキャリア形成教育を始め、3年生のインターンシップは、自己の就業力を試す機会になる。これまでのインターンシップは社会参加型でやや受け身的なものであったが、「就業力育成支援事業」では自己の成長を試す機会になる。

また、「就業力育成支援事業」の進行とともに、インターンシップ前に、企業から技術者を招き、技術者に求められる社会人基礎力や知識・技能を講義してもらうので、これまでのような外部講師による一般的な心構えの講義よりも、よりリアルなものになり、インターンシップに臨む意識や学習意欲がこれまでのものよりも向上すると期待される。

このように、これまでのインターンシップへの取り組みに関する研修効果は、日頃の大学での生活態度に大きく依存していることから、研修による特化した効果を求めることは難しいと思われたが、「就業力育成支援事業」で改善されると期待される。

10. インターンシップ実習の課題

大半の学生は当初希望していなかった実習内容を行うこととなったが、それでも大半の学生が実習に参加したの

は、就業体験を通じて働くことの意義を感じたいという意気込みが強かったものと考えられる。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験したかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

学生のモチベーションを維持することは難しいが、毎月の就職ガイダンスやインターンシップ事前研修の量や質を考慮すると、学生自身が消化不良をおこし、集中力を欠いていると想像できる。

今後は、「就業力育成支援事業」で学生への教育効果を見極める時間と評価方法が増え、学生の習熟度に合わせたガイダンスや研修が行えると期待される。

この報告書を作成中に、3月11日に東日本大震災が発生し、広範囲の農水産業を中心に産業界に深刻な経済悪化を引き起こした。福島第一原発からの放射能漏れ、計画停電などでこれまで経験しなかった事態が発生し、更なる経済悪化の長期化が懸念される。これによる学生の雇用条件も一段と厳しくなると想定される。

11. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業およびその担当者の皆さん、そして報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

参考文献

- 1) 文部省編、インターンシップ・ガイドブック、インターンシップの円滑な導入と運用のために、1998。
- 2) 丹羽昌平 他、インターンシップで学生は何を得たか？—平成14年度インターンシップ実施報告—、静岡理工科大学紀要、第11巻、2003、281-303。
- 3) 丹羽昌平 他、インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—、静岡理工科大学紀要、第12巻、2004、299-320。
- 4) 丹羽昌平 他、平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—、静岡理工科大学紀要、第13巻、2005、95-104。
- 5) 丹羽昌平 他、地域社会との連携による実習体験教育、工学教育、第53巻第4号、2005、23-29。
- 6) 惣田昱夫 他、平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—、静岡理工科大学紀要、第14巻、2006、163-174。
- 7) 富田寿人 他、平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—、静岡理工科大学紀要、第15巻、2007、127-139。
- 8) 富田寿人 他、平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—、静岡理工科大学紀要、第16巻、2008、117-129。
- 9) 富田寿人 他、平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—、静岡理工科大学紀要、第17巻、2009、163-174。
- 10) 山庄司志朗 他、平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—、静岡理工科大学紀要、第17巻、2009、1-11。